

# ぶんかざい おおた

令和3（2021）年3月 発行

大田区教育委員会 大田図書館 編集  
文化財担当

〒143-0025  
東京都大田区南馬込五丁目11番13号  
（大田区立郷土博物館内）  
TEL 03-3777-1281 FAX 03-3777-1283

## 目次

- ◆トピック  
羽田神社富士塚の修理が完了しました…………… 1
- ◆令和元年度事業報告…………… 3
- ◆遺跡発掘調査速報…………… 4
- ◆田中弥次右衛門氏の大田区文化財保護審議会委員ご退任について…………… 5
- ◆新刊のご案内…………… 6

## 第23号

### トピック 羽田神社富士塚の修理が完了しました

本羽田に所在する羽田神社において、令和元年度の大田区文化財補助金事業として、区指定有形民俗文化財「富士塚」の修理工事が実施されました。

近世の江戸では庶民を中心に富士山信仰が広まりました。やがて信者が集まり、資金を出し合って代表者が富士登山をするようになりますが、この団体を「富士講」といいます。富士講によって、老若男女誰もが富士登山できるようにと神社や寺の境内に富士山を模して造られたのが「富士塚」です。都内では各地「浅間神社」を始め80余基が確認されており、その多くは現在も登拝できるようになっています。中には国や都の指定文化財になっている富士塚もあります。

羽田神社富士塚は明治期の築造ですが、近辺の富士講中から奉納された石碑が残されており、当時の信仰の様子を伝える区内の重要な文化財として知られてきました。近年は崩落の危険性が高まり立入禁止となっていました、この度の修理によってかつての姿を取り戻しました。



羽田神社富士塚

## 羽田神社富士塚について

羽田神社は、鎌倉時代に当時の領主行方なめかた与次郎ごすてんのうが牛頭天王を祀まつったことから始まり、江戸時代には徳川家・島津家・藤堂家などに篤く信仰されたといえます。自性院じしやういん境内に祀られていたこの牛頭天王社は明治元年（1868）に八雲神社として独立し、明治40年（1907）に羽田神社と改称して現在に至ります。

俗に「羽田富士」と呼ばれる羽田神社富士塚は、神社社殿の向かって左後方に位置します。羽田の木花元講このはなもとこうや木花講このはなこうによって、明治初頭に築造されたものとみられます。元は現在の神楽殿のあたり（境内産業道路側の入口脇）に造られたと伝えられています。当初の塚はいまより小ぶりで、現在見ることのできる羽田富士の姿は、昭和35年（1960）頃に、それまで塚に使われていた石を全てはずし、土を積み足して大きくしたものです。外側に貼りつけられた石は伊豆から運んだ黒ボク石（富士山の溶岩）で、増築以前からあったものがそのまま使われています。

塚の正面にはジグザグに造られた登山道があり、麓から頂上までの間には富士講碑や合目石などたくさんの石碑が建てられています。中でも講碑は明治8年（1875）造立のものを始めとして17基が残存し、当時の篤い信仰心がうかがえます。頂上には富士山頂の浅間神社奥宮をあらわした石祠が安置され、その手前に小型の石造神明鳥居が建てられています。

毎年7月1日に行われる山開き神事は一時断絶しましたが、平成25年（2013）に富士山が世界文化遺産に認定されたことを記念して再開されました。通常の山開きでは富士講の人びとが塚に登って祈願しますが、羽田富士は塚内に樹木の根が蔓延したことによって塚自体が傷み、崩落が進んでいたため、近年は立入禁止となっていました。そこで神社の意向により、塚上の石造物などの状況を詳細に記録したうえで、本格的な解体修理工事を執り行いました。修理はつつがなく完了し、今年度の山開き以降はふたたび登拝できるようになっています。教育委員会では今後一層の公開活用に向け、修理事業に伴い新たに得られた情報も含めた報告書を刊行する予定です。



木花講社碑（『大田区の文化財』第12集より）



修理前



修理後（修理完了記念祭の様子）

# 令和元年度事業報告

## 文化財公開見学会

令和元年度文化財公開見学会は、10月26日（土）に洗足池公園都名勝指定化&勝海舟記念館オープン記念行事「洗足池公園の魅力、再発見！」と、11月23日（土・祝）に羽田神社富士塚の修理現場見学会「よみがえる羽田富士～羽田神社富士塚の謎に迫る～」の2回が開催されました。

「洗足池公園の魅力、再発見！」では、講師に大川三雄氏（日本大学特任教授・大田区文化財保護審議会委員）をお迎えし、日蓮聖人（1222-82）や勝海舟（1823-99）ゆかりの史跡が点在する洗足池公園の中で、日蓮聖人が池で足を洗う際、松に袈裟をかけたという逸話を伝える古刹・妙福寺に建つ明治期の建築「祖師堂」、ならびに令和元年9月より勝海舟記念館として公開活用されている昭和初期の会館建築「旧清明文庫」という、いずれも国の登録文化財である2軒の建造物にスポットを当てて見学しました。



妙福寺祖師堂の見学



旧清明文庫（勝海舟記念館）の見学

「羽田富士」の見学会当日は生憎の悪天候にも関わらず、通常見ることのできない富士塚の修理現場を間近で見る機会とあって、事前申し込みで当選した全員にご参加いただくことができました。講師には坂本要氏（筑波学院大学名誉教授・大田区文化財保護審議会委員）をお迎えし、修理中の富士塚裏側にまわったの見学の後、社務所内で羽田地域の富士信仰の話や富士講の活動の様子をご解説いただきました。さらに当日は、羽田神社の皆様や講元による地元での思い出やこれからの文化財活用への思いなど、貴重なお話も伺うことができました。



富士塚修理現場の見学



羽田神社社務所での講義

なお、歴史的建造物の見学会については毎年多くのお問合せやご希望をいただいておりますが、ほとんどが個人の住宅であり、日常的に公開できるものではないため、今後必ずしもご期待に沿う結果とはなりませんことをご理解いただけますと幸いです。

## 発掘調査速報

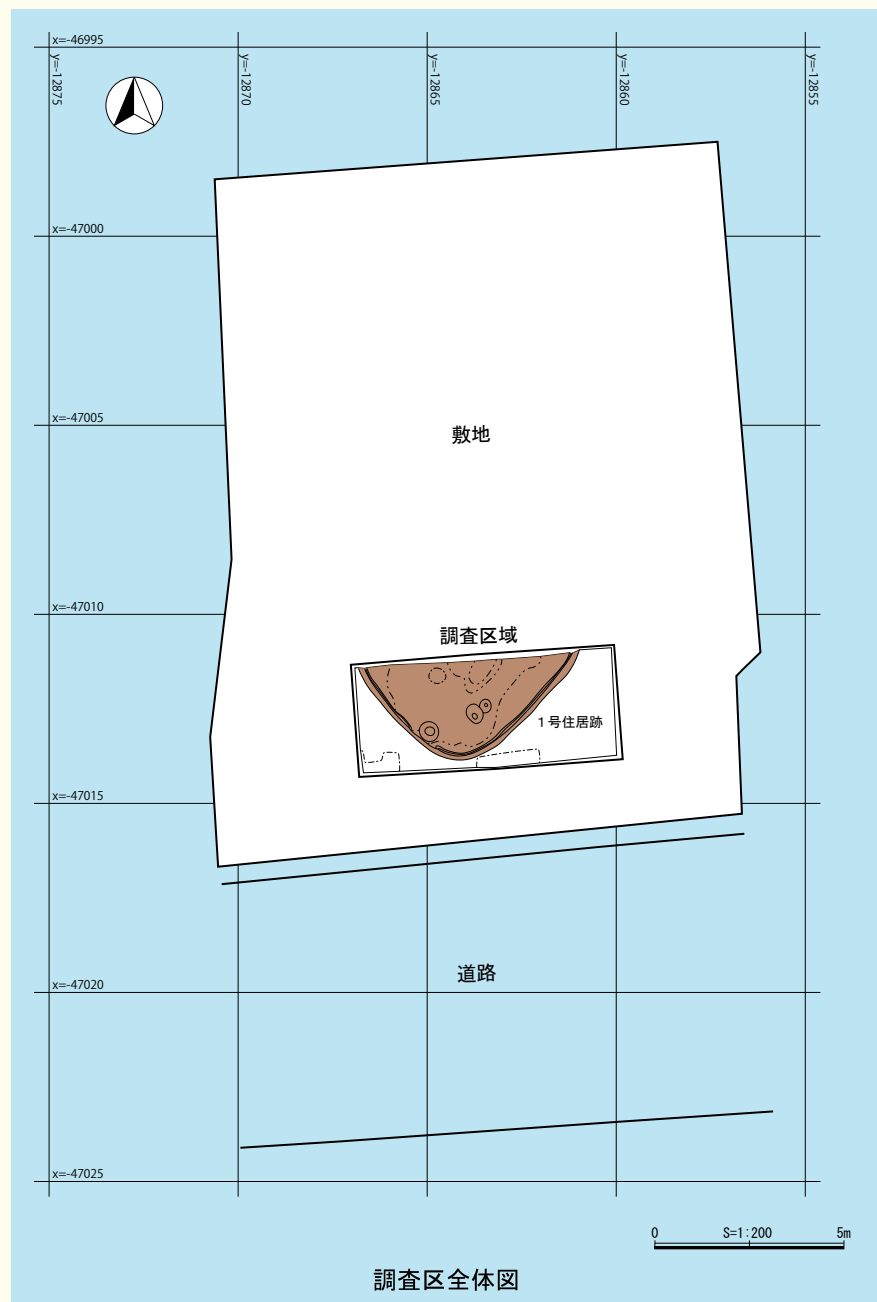
大田区久が原六丁目6番17号  
久ヶ原遺跡【大田区遺跡番号81】

令和2年8月、分譲住宅建設工事に伴う事前調査として、大田区久が原六丁目6番17号地点において、埋蔵文化財（遺跡）の発掘調査が行われました。同地点は、南関東地方を代表する弥生時代後期（西暦1～3世紀）の集落跡・久ヶ原遺跡の西側中央部に位置しています。久が原四～六丁目および千鳥一丁目にかけて、武蔵野台地の南東端に発達した久が原台の広大な台地に展開する久ヶ原遺跡では、戦前（昭和初期）の土地区画整理事業の際に弥生時代の住居跡が発見・調査されて以来、数多くの発掘調査が行われてきました。

今回の発掘調査では、約21㎡という狭い範囲ながらも竪穴住居跡1棟（1号住居跡）が検出されました。調査されたのは全体の1/2程度ですが、残存規模は南北2.6m、東西5.8m、深さ0.55mを測り、平面は一辺約5.0～6.0mの隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈するものと思われます。周囲には細い溝が掘られ、床面は良く踏み固められていました。調査範囲からは炉跡など、当時の人々が生活していた痕跡は見つかりませんでした。住居の柱穴と考えられるピットなどが検出されました。いずれも小さな破片ばかりですが、住居跡から弥生時代後期に属する久ヶ原式土器片74点のほか、古墳時代後期（西暦6～7世紀）の把手付甕の破片など、総数83点の遺物が出土しました。

今回の調査地点周辺では、南側に近接して久が原六丁目14番8号地点（平成11年度調査）や久が原六丁目13番地点（平成24年度調査）において同時期の住居跡が見つかることから、久ヶ原遺跡の西側中央部～南西部にかけても、集落が展開していたことが想定されます。

久ヶ原遺跡については、これまでの発掘調査の成果に基づいて、台地の中央部分が方形周溝墓の造営などの墓域として使用され、その周囲（台地の縁辺部）に居住域（集落）が形成されると考えられてきました。今回の発掘調査は極めて限定的なものです。今後、久ヶ原遺跡における集落の構造や展開を考える上で、貴重な情報を追加することができたとと言えます。



調査区全体図



検出された竪穴住居跡



発掘調査の様子

上記の調査成果を収録した発掘調査報告書（『東京都大田区 久ヶ原遺跡 発掘調査報告書一久が原六丁目6番17号地点の調査一』）は、『全国遺跡報告総覧』のホームページ（<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>）においてデジタルデータ（PDF）が公開されており、下記のURLからダウンロードすることができます。

<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/88621>

また、過去に大田区教育委員会が発行した一部の発掘調査報告書についても、同様に公開を開始しています。あわせてご利用下さい。

<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/62523>（『大田区の埋蔵文化財』第23集）

<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/72639>（『大田区の埋蔵文化財』第24集）

## 田中弥次右衛門氏の大田区文化財保護審議会委員ご退任について

昭和56年（1981）からの永きにわたり大田区文化財保護審議会委員をお務めいただいた田中<sup>やじえもん</sup>弥次右衛門氏が、令和2年2月2日に米寿をお迎えになることを受け、同日付で委員の職をご退任されることとなりました。これまで大田区史の編纂にも携わっていただくなど、文化財に対してのみならず区政への多大なご功績は計り知れません。ご退任にあたっては区長、教育長との対談にも臨まれ、思い出話に花を咲かせました。



（左から）小黒教育長、田中氏、松原区長

## 1 大田区歴史散策ガイドブック「馬込・新井宿編」「池上・久が原編」

平成17年(2005)に発行した『大田の史跡めぐり(増補改訂版)』が完売となったため、まち歩きガイドブックとして内容を大幅に刷新しました。1冊ごとに数時間～半日程度で歩ける範囲でモデルコースを組んで提示し、実際に文化財関連施設に足を運んでいただくことを目的として、地区別にみどころを紹介した内容となっています。これまでに刊行された「六郷・羽田」「蒲田・糎谷」「大森・山王」「鶴の木・矢口」の4編に引き続き、令和元年度は「馬込・新井宿」「池上・久が原」の2編を刊行しました。

「馬込・新井宿」編では、都指定史跡「新井宿義民六人衆墓」の置かれる善慶寺(山王3-22-16)をはじめ、龍子記念館(中央4-2-1)や郷土博物館(南馬込5-11-13)を巡るコース、「池上・久が原」編では池上本門寺の一带から、弥生時代の大集落「久ヶ原遺跡」が広がる台地上に至るコースとなっています。価格は1冊あたり100円です。

「池上・久が原」編



「馬込・新井宿」編

## 2 大田区の古民家調査報告書(『大田区の文化財』43集)

平成30年(2018)に解体された鶴の木の古民家「天明家住宅」と、大森の元海苔生産農家「平林家住宅」の調査報告書です。「天明家」は、江戸時代には村の名主を務めるなど都内でも屈指の歴史と内容を誇る旧家の居宅で、江戸中期の築と伝えられます。解体に先立ち、詳細な実測調査や痕跡調査を実施しました。「平林家」は明治27年(1894)に上棟された建物で、現在は数少なくなっている海苔生産農家の構造を残す点、また明治から現代にかけて生活様式が変容していく様子を追うことができる点で貴重であり、今後の詳細調査による文化財的な価値評価が期待されています。

いずれも所有者のご厚意により調査が実現しました。価格は1冊1,000円です。



「天明家住宅」南面全景(解体前)



「平林家住宅」南側立面

大田区教育委員会では昭和50年代以降、古民家をはじめ近代住宅建築や土木構造物などの「歴史的建造物」に関する調査を実施し、記録保存しています。それらの報告書は『大田区の文化財』シリーズとして、これまでに「大田区の民家」(第16集)、「大田区の近代建築1・2」(第27・28集)、「大田区の歴史的建造物」(第34集)、「羽田レンガ堤調査報告書」(第37集)、「六郷水門・六郷排水場調査報告書」(第40集)、「大田区歴史的建造物調査報告書」(第42集)が刊行されています。あわせてご参照いただければ幸いです。